

## 令和4年第5回田原市教育委員会定例会

- 1 開会 令和4年5月17日 午後1時30分
- 2 閉会 令和4年5月17日 午後2時20分
- 3 会議に出席した委員  
鈴木欽也教育長、金田真也委員教育長職務代理者、太田孝雄委員  
天野千栄子委員、高崎佐智江委員
- 4 会議に欠席した委員
- 5 会議に出席した職員  
教育部長 増山禎之  
教育総務課長 大羽浩和  
学校教育課長 近藤智彦  
生涯学習課主幹 太田征樹  
スポーツ課長 鈴木雅也  
文化財課長 天野敏規  
中央図書館長 是住久美子  
教育総務課長補佐兼教育総務係長 木村真一
- 6 議事日程  
別紙のとおり

田原市教育委員会第5回定例会議事日程

日 時 令和4年5月17日(火)

午後1時30分

場 所 北庁舎2階 200会議室

- 1 会議録署名者の指名
- 2 教育長報告事項
- 3 報告事項
  - (1) 教育委員連絡報告事項
  - (2) 水泳事業の充実(学校プールの集約化)令和4年度の事業概要について
  - (3) 「史跡 百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡 保存活用計画」について
- 4 その他

開 会 午後 時 分

教育長

本日は、何かと御多用のところ御出席くださりましてありがとうございます。

ただいまの出席者は、5名であります。定足数に達しておりますので、令和4年田原市教育委員会第5回定例会は成立いたしました。

これより開会いたします。

教育長

それでは、会議規則第13条第2項の規定により、会議録署名者の指名をさせていただきます。今回の署名者として、高崎委員と太田委員の御両名を指名させていただきますのでよろしくお願いいたします。

教育長

それでは議題に先立ちまして、教育長報告を私からさせていただきます。また、いつものように表紙をおめくりいただいて、2枚目を御覧いただけたらと思います。

前回4月15日の定例会から本日までの私が関わったものについてまとめさせてもらっております。

ゴールデンウィークが明けて、今現在の新型コロナウイルス感染症の陽性者の数がちょっと今増えている状況でございます。田原市内が先週あたりから30人とか、20人とかそんな数がずっと続いていて、心配をしているところであります。学校の関係でもやはり子どもの感染であったり、濃厚接触者が少し出ておりまして、本日、今現在も二つの学校で学級閉鎖がそれぞれ1学級ずつ行われているということで、何とかこの心配な状況を早く改善できないかなと考えているところでございます。コロナ対策については、学校にも引き続きしっかりと対策を取るよということをお願いしているところでありますが、ただ全国的な様々ないろいろな催しとか、イベントなどの様子を見てみますと、だいぶ規制が緩和をして、緩めていくというような動きになってきているのかなと思います。マスクを取る、取らないということも最近ちょっと問題になっておりますし、特に学校の子どもたちについては、この後熱中症などが心配される時期に入ってきますので、その辺のこともよく考えて適切な対応を今後も気をつけて取っていくことが必要かなというように考えております。

今申し上げましたように、いろいろなことが少しずつ、私が関わっている会につきましても行われるようになってきております。形を縮小して行ったり、通常開催に戻したりと、そのようなことも幾つかございました。

4月21日に東海北陸都市教育長協議会の定期総会と研究大会というのが、これはオンラインになってしまったわけですが、これも3年ぶりに開催されました。2年続けて書面開催だったものが、何とか今年

は開催をということで、急遽オンラインに変わったわけですが、何とか実施できました。

それから5月12日から13日にかけて、全国都市教育長協議会山口大会が開催されました。こちらも2年間書面開催で行われてきたものですが、3年ぶりに、こちらは実際に人がそろって、対面で行うという形で、コロナの対策を万全を期しながらも、通常形で開催できました。私もこの立場になって初めて参加したものですから、いろいろな全国のそういった状況なども新しく知るようなこともあって、少し新鮮な思いで参加してまいりました。

この全国都市教育長協議会ですが、こちらは政令指定都市を除く全国800余りの都市が参加する協議会でございます。研究協議会の中で幾つかの事例発表などが行われて、人口や財政の規模は違うのですが、多くの自治体が共通する問題や悩みを抱えているということもよく分かりました。特に地方都市に共通するのが、人口減少や少子化からくる課題への対応ということで、私たちの田原市もそれに面しているわけですが、地方へ行くと本当にそういったことが切実な問題として、どの自治体も対応しているということで分かった次第であります。それにも関わるのですが、それぞれが自分たちの地区ということをとっても大切にしている、名称は異なるのですが私たち田原市で推進しているふるさと教育と同じような考え方で教育活動であったり、教育行政であったり、そういったものを進めているということもよく分かった次第であります。

大会の最後に事例発表をした夕張市があったのですが、これが私とても最後印象に残りました。よく発表を引き受けたなと私、ちょっと思ったのですが、夕張市は皆さん御存じのとおり、15年ぐらい前になるでしょうか、財政破綻をしまして現在も財政再建団体という形で非常に苦しい市政運営を行っているところでございます。

60年前の炭坑の最盛期には、11万人の人口があったそうですが、今は7,000人だそうです。まだ、市として保っているわけですが、非常に苦しい状況の中で、様々なことをスリムにコンパクトにして、何とかまちを存続していこうという取組を市を挙げて行っているということでございました。教育委員会としての発表は、そういった苦しい状況の中ですが、昨年新しく生涯学習の複合施設をつくりまして、市民の生涯学習の拠点として、何とか新しい取組をしているという、そのことで発表がございました。コンパクトな施設なので、その中に教育委員会の事務局であったり、子育て支援課もそこに併設して、子どもの支援ということで、園児から小中学生まで続けて行えるようにということが入っていたり、あるいは図書館もコンパクトな形ですがその中に入っていたり、集会や会議ができる部屋もあつたりという形で、そ

んな施設でございました。裕福なまちからすると非常に質素な建物ですが、ただ、今の夕張市としてはできる限りのことで、今現在の市民に財政が貧しいからといって、何も手を打たないというのではなくて、今の市民たちがしっかりと生涯学習、そういったことがきちんとできるように、それから、将来に向けて夕張市で豊かに生活が送っていきえるようにとそんな願いを込めて進めているというのが非常によく分かりました。

発表者は、教育長が発表していたのですが、教育長の夕張市であったり、夕張市民に対する愛情と熱意とか、そういったものが非常に強く感じられて、すばらしい発表であったなというように思いました。会場で聞いていた多くの教育者たちも非常にみんな感銘を受けて、いろいろな質問がたくさん出ておりました。

教育行政に携わる者として、そういった向かい方というのでしょうか、置かれた状況をとにかくしっかりと受け止めて、その中で目的をしっかりと明確に持って、最大限の努力をそこにしていく、状況は厳しいですが、そのことが非常に伝わってくるよい発表だったなということとともに、私たちも見習うべきことが多くあるなということ非常に感じた次第でございます。

もう一つだけ紹介させていただきます。

4月26日に、三河部都市教育長協議会が豊田市でございました。

県教育委員会からの報告や説明であったり、あるいは教育長間の協議や情報交換が行われたわけですが、非常に課題が多い中で、この日特に協議されたのが学校の部活動のことでございました。今年からのこの3年間で地域移行を本格的に進めていくということが通達でありまして、どこの地域、どこの自治体も今、一所懸命それに取り組んでいるところではありますが、私たち田原市も一所懸命知恵を絞りながら進めているところでもあります。なかなか組織の在り方であったり、人の確保であったり、財源のことであったり、解決したり克服したりしていく課題は非常に多くございまして、どの市でもやはりその辺は共通していて、できるだけいろいろなところで情報共有を図りながら、それから、まとまって何か意見を上に伝えていくことはそろってというようなことで、子どもたちにとってとにかく最善の形になるようにということ、この日もいろいろな教育長が言っていたのですが、そのことをとにかく忘れないように、ぶれないようにして進めていくべきであると、そんな話がされて、私もちょっとその辺りのことが非常に心に残っている次第でございます。

あと、幾つか会合に出ましたが、ここでは特に説明は省略させていただきます。

私からの報告は以上とさせていただきます。

何か御質問等ありましたら受けたいと思いますが、いかがでしょうか。

御質問もないようですので、教育長報告事項を終わります。

教育長

続いて、報告事項に入りたいと思います。

それでは、教育委員の皆様方の連絡、報告事項を順次お願いいたします。

金田委員

金田委員からお願いいたします。

教育委員としての活動はありませんでしたが、博物館にお邪魔したときの話をさせていただきたいと思います。

4月の下旬の平日、午前中雨が降ってきたので、ふらっと博物館に寄らせていただきました。何をやっているかなとスマートフォンで検索をしたら一番最初のところに何月何日から何々をやっていますというようなことがシンプルに載っていて、非常に分かりやすかったです。駐車場に止めて行こうと思ったのですが、障害者用の駐車場のところに看板が立っていて、どういう書き方が覚えてないですが、看板に博物館に御用のある方は、博物館横まで来てくださいという内容が親切に感じました。

展示を見たのですが、花を描くという題名で、田原市出身の画家の方の絵がずらっと並んでいたのですけれども、一通り見たときにやはり太田洋愛先生の絵は別格だなというのを感じました。

あと、ふるさとの歴史、水と海という項目で館内をぐるっと回ったのですけど、やっぱりおもしろいなと思ったのが、畠村萬附留日記に書かれていた、日照りに悩まされて3日3晩雨乞いをした様子が書かれていて、そこからずっと見ていくと豊川用水につながって、水が今苦労しないという、そんな流れになっていたのを見てストーリーがおもしろいなと思いました。萬附留日記にはいろいろなことが書かれていると思うのですけれども、豊川用水に向かってこういった流れがあるというチョイスの仕方などもいろいろ考えたんだろうなというのが伝わってまいりました。

あともう1点は、戦争の記憶なんていうのが書いてあって、自分の場合は大正生まれの祖母が戦争の話をしてくれたのですけれども、その祖母も7回忌が終わって、一切聞かなくなった、また、一番最近聞いたというのが2年前に彦坂登一郎先生の父親が紙芝居で渥美線の襲撃、その話を聞いたのが最後だったのですけれども、その方も先日、亡くなってしまったということです。こういった戦争の記憶などは、博物館が伝えていく大事な施設になっていくのかなと、そのように感じさせていただきました。

自分自身、平日雨が降ったらどこかに遊びに行ってしまうんだけど、博物館を選択したというのは、なぜこんなふうになっちゃ

教育長

ったのかなと、自分で言うのもなんですけど、そう感じさせていただきました。

以上です。

ありがとうございました。

続けて太田委員お願いします。

太田委員

私も教育委員としては特別なことは行っておりません。教職員の総会もWeb開催ですし、それから地元の体育大会、運動会も縮小開催ということでお声がかからないものですから、私も教育委員として仕事に飢えておりまして、金田委員と同じように博物館へ行かせていただいて、同じように展示を見させていただきまして、私のほうが金田委員よりも少し世代が上ですので、私どもが一番博物館にお邪魔して印象に残ったことは、山田もとさんの「水の歌」というのが展示されておりまして、以前にも読んだことがあるんですけども、改めてその足で図書館へ行って、随分年季の入った本を借りまして読みましたけれども、ちょうど私の祖母から母親ぐらいの世代の方の、私も赤羽根ですので大草とは地理的にも似たようなところで、私の祖母も母親も野田出身ですので、ちょっと似たようなところがあったものですからだいぶ共感しながら、また、方言も今はほとんど使いませんが、ちょっと懐かしいような方言にも触れながら、興味を持って読ませていただいて、いろいろ感じるころはあったのですが、渥美半島にとっては水が大切だということだとか、それから戦前、戦中、戦後と農家に生きてきた女性の一生がとてもリアルに私には伝わってきて、歳のせいか懐古的な気持ちになって、これを今の若い世代には分からないところもあるけど、やはり伝えていくことも必要ではないかということも強く感じて、博物館、図書館でいい勉強をさせていただきました。

文化協会のほうは、昨年できなかった総会だとか、市民茶会も今年は実施できまして、春の文協祭りもこれから5月の下旬にまた行われますので、皆さん方、また御参加いただければ幸いです。

以上です。

続きまして、天野委員お願いします。

教育長

天野委員

私も報告できる活動はございませんでした。

今朝ですけれども、畑に向かう車を走らせておりましたら、前に観光バスが走っておりまして、保美の信号のほうで福江中学校方面に曲がって行ったんです。あ、そういえば、もしかしたらと思ひまして、そのまま畑について主人にそのことを話したら、今日から修学旅行だよと。ちょうど先週コミュニティスクールで、定例会があったときに学校教育課にみえた井本先生が教頭先生になられて、そのときに皆さんにお話ししてくださったのが、一応東京方面に行けることになりましたというお話と、あとディズニーランドの入場が抽選になって

いて、それが当たったということで、とても生徒さんたちが喜んで楽しみにしていらっしゃるということを先週聞いたことを畑で聞きまして、よかったなど、私たちも収穫作業をしながら家族で息子なんかは自分のときの思い出などを話しながら、生徒さんたち楽しい思い出をつくれるといいねみたいな、家族で楽しい話をさせていただきました。お天気が心配だと思うんですけど、いい思い出をつくってきてくださったらなと思いました。

教育長

すみません、たわいもない話で、以上です。

修学旅行も過去2年は、違う地方へ行っていたのが、今年は何とか目的地も東京方面でというようなことで、大きな決断をして行くと思いますが、ありがとうございました。

高崎委員

では、最後に高崎委員からお願いします。

私も太田先生ではございませんが、教育委員としてのお仕事はございませんでしたので、ちょっと活動をしておりまして、いろいろ感じることをお話しさせていただきたいと思います。

教育長がここにすてきなカラフルなバッチをつけていらっしゃるんですけど、実は私もです。昨日、私の仕事の関係で所属している団体で、豊橋で講演会がありまして、食品ロスのお話ということだったので、そうだろうなと思って伺いましたら、実はSDGsの話が多くて、やはり私、配慮が欠けていたなとバッチも持っているのにな、せっかくいただいて、配慮が欠けていたなと思った次第です。

2030年に向けてSDGs皆さん、例えばこの市役所のほうでも3010運動でしたかやっていたら、皆さんそれぞれできることをできる範囲でやっていたら、そういったお話ですとか、あと一番おっしゃっていたのが、皆さん食品ロスとかいろいろおっしゃるんですけど、今、マスクの廃棄がすごく多くて、これは医療関係だから捨てるしかなくて、そういうことを東京から講師の先生がいらしていたのですが、どうするんだといったときに、答えられる人が誰もいないという、ああこういう問題提起は、次々、次々出てくるんだなということを改めて昨日思いました。

先ほど金田委員が何でこんなに立派になってしまったのかな、なんておっしゃいましたが、私も何か最近、心から例えば一昨日、道を歩いている中学生の子にお疲れさまとか、バットを持っていると頑張ったねとか、地域のすごいおせっかいお婆さんが最近ますます増してきて、何年生なんて声をかけてみたり、川沿いを歩いていますと、あちらのほうからおはようございますとか挨拶をしてくださる方がいらっしゃる、はっと見ると実は、そういう方が外国の方だったりするんです。だから、外国の方のほうが何か自ら、どちらかという日本の方のほうがちよっと照れ屋さんなのかなと、改めてコミュニケーションの大切さというのをこれからの課題として大事なのではないかとい



うことを日々思ったりもしています。

あと、先ほど皆さんおっしゃっていましたが、私実は、山田もと先生にお茶のお稽古を教えていただいています、書物もさることながら、先生は若い独身のときに沖縄に住み込みでお手伝いさんで行かれていた経験をお持ちで、そういうことを私、生の声としてお稽古のときに伺うことができたのです。お道具で実はこれはそこでいただいたんだよとか、一番思いましたのは、体験ですね。私たち戦争の体験はまるでないじゃないですか。先ほどおっしゃった彦坂さんがお亡くなりになって、御一緒に活動されて、最近トンボがまたますます大きくなった元校長先生が、トンボをつけてらっしゃる先生がいらっしゃるのですけど、時々お目にかかるのでいろいろお話を伺っていると、そのトンボの先生が彦坂さんのあとは、自分が受け継いでやっているよと、頑張ってみえて、校長先生を退職されてからも熱意を持って戦争のことをお伝えしていきたいとおっしゃっています。

この間、山に行かれて、僕、迷っちゃったんだよとか、日々新たに向上心を持ってやっていらっしゃるので、身近にすごい方々がいっぱいいらっしゃるなと思って、励みになります。なので、私、褒められたことがあまりそういうことでなかったのですけど、大人になって息子が言っていたのですが、仕事先で話しをしていたときに、私、子どもが学校の先生の影響で広島原爆ドームに行きたいと言ったことがあって、そうしたら働いていたときの経済界を代表するような方と話す機会があって、原爆ドームの話をしたときに、私1日しかないときに子ども3人引き連れて、何しろ今でいうワンオペだったものですから、3人引き連れて原爆ドーム、それじゃあ今日しか空いてないから行こうと、引き連れて行ってしまったことがあるんだけど、そのときになぜか若くて、子どもたちが戦争の経験を知らないということは、これからどうなんだろうと思ったものですから行ったのですけど、やはり太田先生じゃないですけど、若い方がそういうことを知らない世の中になっていってしまうということが、何となく年代的にちょっと残念かなと思うので、私の最近褒められたこと、うれしかったことを一つ報告をさせていただきます。

あと、教育長にお願いがありまして、こうして出られたことを教えていただくのはすごくうれしいなど、お願いというかありがたいなど、日本がどういう方向に向かっていくということを私たちが教えていただきたいなど、すごく今日はうれしいです。お願いではございませんでした。感謝の言葉でした。ありがとうございます。

以上でございます。

ありがとうございました。

次に、報告事項(2)水泳事業の充実(学校プールの集約化)令和4年度の事業概要について、事務局から報告をお願いします。

教育長

それでは、A3の2枚とじになっています資料をお願いします。

「水泳事業の充実、学校プールの集約化について」ですが、従来は「学校プールの在り方検討」という形になっておりました。今後は、どのような見出しが適切かということで、今年度はあくまでも水泳事業を充実していくんだということと、併せて学校プールを集約化していくんだという意味合いを込めまして、タイトルをつけてみましたので、特にこういったことですよという決めごと、名前はこういった名前ですよという決めごとはございませんで、御了承をさせていただきたいというように思います。

資料の中身に入ります。

昨年度からの在り方方針に基づいて、事業は推進してきております。四角に囲ってあるとおり、水泳事業の充実を目指して、検討の方針としましては、(1)から(4)まで、1点目として水泳教育の充実、2点目としては衛生、安全管理を確実に確保するという、3点目は、教員の負担軽減、4点目としては合理的なプールの運営という形で進めてまいりました。

本年度以降の取組について、1番目に取組事項ということで記載してございます。

本年度以降の取組ですけど、まずは(1)として、実証調査を引き続き行っていくということでございます。

大きく2点目としては、新設プールの整備場所の検討を進めるということ。3点目は、送迎手段の検討という形で、大きくはこの3点を中心に進めていきたいと思っております。

引き続き、実証調査を行ってまいります。今年度はどのようにやっていくかということですが、また後、次ページで詳しくお話ししますが、ある程度学校を絞った形で、その学校をモデル校として、1年を通じて水泳事業を全て全天候型プールで送り迎えしながらやっていこうと思っております。併せて、他校との合同事業、こういったことも実証をしていきたいと思っております。そのときに、実証を通して、授業の時間帯は適切か、内容は適切か、業者に授業はお任せいたしますので、教員との役割分担はどのようにしていくか、あるいは当然、成績等々もつけますので成績表はどのようにしていくかなどを細かく検証しながら実施をしていきたいと思っております。

2点目として重複しますが、プールの建設場所を具体的に進めていきたいと思っております。

市内を東と西に分けた場合、基本的に今、東のほうは、ジャスコの横にありますコパンさんのプールを活用するという前提で行っていますので、そうすると西側のほうが昨年の結果で、昨年度実証の中でなかなか時間内に田原まで福江方面の方が来てやるには支障が出そうだということですので、もう1か所は西側のほうにプールを設置、ある

いは民間の人がつくってくれればありがたいのですが、そういったものが需要だということは認識をしておりますので、そういった整備場所を検討していくというのが主になるのかなと思います。

3点目、これは輸送手段の検討ということで、やはり近隣の小中学校については、歩いたりあるいは自転車で通うことは可能かと思えますけど、大方の学校がバスによる送迎を必要としますので、現在スクールバスが市内合計9台走っております。こういったものとうまく複合化をしながらできないかというのをさらに検討を進めていきたいとは思っております。

その他、集約化に伴っていろいろ細かな課題が出るかと思えます。記載のとおり例えば、学校への進入であったりだとか、もちろんプール開放をどうするかであったりだとか、消防水利としても活用しているということもありますので、そういったところを消防であるとか、他機関との調整をする必要があるのかなと思います。

次ページ、裏面をお願いしたいと思えます。

それでは、来年度プールの実証調査ということで、実証調査の来年度、具体的にどのようにやっていくかということでございます。

まず、ポイントでございますが、令和3年度については、ともすると体験型、一回泳いでみるだとか、経験をしていただく、体験をしていただくという形で行いましたけど、今年度は先ほどお話ししたように、1年間を通じてプール授業を全てそこでやってもらおうと、記載のとおりモデル実証調査という形で名前をつけておりますが、これを実施する。併せて合同事業、これも1年を通じてですが合同事業を行うというようなこととなります。

飛びますが、(2)にありますとおり、四角の中で今年度、モデル型をやっていただくのが、田原東部小学校全ての全校生徒、泉小学校全ての全校生徒、そして童浦小学校につきましては体験型で4年生の方にやっていただく予定をしております。

これは民間プールで全て行いますが、併せて学校のプールで合同授業を行います。講師には、コパンさんのインストラクターにより実施するという形で、場所は若戸小学校で、若戸と伊良湖岬小学校を全ての授業に渡って実施するというように計画しております。こちらの実証を通じて、先ほどお伝えしたようにもう一度授業の時間が適切かとか、内容であるとか、役割であるとか、こういったものを再度詳細に検証をしていきたいと思っております。

(3)の調査項目、これは飛ばしまして、次の大きな表を見ていただきますと、具体的なもので大変恐縮ですけど、今年度、令和4年度のプールのスケジュール表になっております。

緑色が東部小学校、青が泉小学校、童浦小学校が紫、若戸小、伊良湖小学校というのがブルーになります。6月10日の東部小学校の午前

から始まりまして、終わるのが今のところ10月までに、余り寒くなってからというのも難しいですので、10月18日の泉小学校まで、通常の学校プールではあり得ない話ですけど、ここまでやってみて春、夏、秋と3シーズンがうまくできるかどうかというのを今年度は実証してみようと思っています。

東部小学校については全てですので、この緑を全部数えますと30コマございます。泉小学校については、その半分の15コマになります。童浦小学校はこの3コマだけで体験をしていただく。若戸小、伊良湖岬小学校は、全部で20コマございます。

このスケジュールにつきましては、それぞれの学校の先生とももちろん講師を派遣していただけるコパンさんと、もちろん学校教育課と調整をした結果、こういった形でいけそうだという形でスケジュールを作成してございます。

以上、今年度の実証の予定及びそのほかの検討の進め方等々につきまして御説明をさせていただきました。

以上で説明を終わります。

ただいま事務局の報告がありました。

御質問等ございますでしょうか。

それでは、御質問もないようですので、次に(3)「史跡 百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡 保存活用計画」につきまして、事務局から報告をお願いします。

それでは失礼いたします。文化財課となります。

お手元にA3のカラーの1枚の資料がつけてあります。これは概要版になります。かなり分量も含めて、字も細かく入っておりますので、できる限り簡単に概略を説明をさせていただきますので、お手元の資料を御覧いただきながらよろしくお願ひしたいと思ひます。

これはあくまでも概要版なので、本編は実は130ページに及ぶかなりボリュームがあるものを抜粋して概要版としてまとめてあります。こちらの本編も、ホームページ等に掲載をしていく予定ですので、詳しく知りたい方はそちらを御覧いただきたいと思ひます。

それではまず、お手元の左側の一つ目の項目として、渥美窯と国指定史跡の百々陶器窯跡、大アラコ古窯跡、伊良湖東大寺瓦窯跡の3史跡についての特徴、概要を一番左側の1の項目のところで述べております。

そもそも渥美窯は、平安時代の終わりから鎌倉時代にかけてこの渥美半島に500基以上窯が築かれたと、焼き物の窯が築かれたというようになっておりまして、そちらの窯のまず価値について、一番左の囲みのところに8項目を抜き出ささせていただいて、丸になっておりまして、8項目がなっているのですが、その一番下、国指定史跡の窯跡が3件あると、こちらにも価値の一つに挙げさせていただいているのです

教育長

文化財課長

が、この国指定史跡の窯跡3件についての保存活用計画を今回策定をさせていただいたということになります。

二つ目の項目といたしまして、資料の2の史跡の本質的価値というところを御覧いただきたいですが、この三つの国指定史跡の本質的価値づけについて記載をしております。もう少し噛み砕いて言いますと、3史跡がなぜ国指定史跡になっているのかというところを述べさせていただきます。三つの史跡になりますので、また資料を見ていただいて、百々陶器窯跡につきましては、本質的価値を三つ項目を挙げさせていただきます。

窯体、灰原が良好な状態で保存されている。窯の状態がよく残っているということになります。

それから谷地形、河川など周辺地形が残る。土地が開発されずに現況がすごく焼き物をやられている当時の姿のまま残っているというところが百々にはあります。

それから、愛知県の国指定史跡第1号として、史跡に指定をされた場所になります。いつ指定されたかといいますと、大正11年、かなり古い指定でありまして、国の史跡で愛知県第1号ですが、西暦でいいますと1922年になります。ちょうど今年2022年ですので100年、史跡指定されて100年という年を迎える非常に古くから指定をされた窯跡だということところが価値として挙げられております。

それから大アラコ古窯跡につきましては、五つの項目を本質的価値で挙げさせていただきます。

まず1番目は、調査後に窯体が埋没保存されていると、大アラコは9基あると今言われているのですが、そのうち発掘調査をしたもので、発掘調査後に窯跡が埋め戻し保存という形で保存をされているということです。

それから2番目に、三河の国の国司であった藤原顕長という人の名を刻んだ短頸壺が発見されて出土しているということも価値として挙げられます。

それから二つ飛ばしまして、最後の丸です。5項目め、生産地と供給先が特定できる窯。生産地は当然、芦にある芦ヶ池のすぐ近くにある大アラコ古窯跡が生産地になるわけですが、供給先、その焼き物が焼かれて、持って行ったところがある程度特定ができるということも価値づけになっておりまして、具体的に言いますと東北地方に大アラコで焼いた窯の焼き物が出土しているということがはっきりしているところで、価値づけとして挙げさせていただきます。

それから3番目伊良湖東大寺瓦窯跡ですが、もちろん皆さん御承知の奈良の東大寺の鎌倉時代の再建時の瓦を焼いた場所になるということところがまず一番大きい価値づけの一つ、それからこの窯は瓦以外にも瓦経でありますとか、瓦塔、それから経筒外容器など特殊な製品、宗

教的に関わりのあるような製品も焼かれた場所であるという特徴がありますので、そちらも価値づけの中に入れてさせていただいております。

三つ目の項目といたしまして、三つの史跡の特徴や本質的価値を基に、大綱、基本方針について記載をしております。国指定の3史跡について、ふるさとの誇りとして、知る、守る、伝え感じるために保存管理、活用、整備、運営及び体制の整備の基本方針がここに定めさせていただいております。

最後、一番右側、資料の右側の四つ目の項目といたしまして、前の大綱、基本方針に基づいて、三つの史跡の保存管理、活用、整備の方向性をここで示させていただいております。そのうちの主なものが、それぞれの史跡では、百々陶器窯跡では、先ほども申しあげましたように、大正時代に指定されているのですが、その後発掘調査等が行われていないというところがありまして、窯の状態が不明確、全然よく分からないという窯跡でありまして、確認調査等を実施し、これは国庫補助の対象になるのですが、史跡の指定範囲を明示等していく必要があるというところがございます。

それから、先ほど価値のところでも申し上げたのですが、谷地形がすごくよく残っているものですから、この渥美窯は斜面をトンネルのように掘って窯をつくるという性格がありまして、百々は谷地形がよく残されているものですから、豪雨等の自然災害で指定地内に雨水が侵入してしまうおそれがある、それが窯をどんどん削っていってしまうというところがあるものですから、その対策が必要になってくるというところがあります。

大アラコ古窯跡につきましては、指定後に無断現状変更というものがされてしまっておりまして、地形が指定当時からかなり変わってしまっております。今現在は農地として利用されているのですが、指定当時の形に現況の復旧をする必要があると。指定は昭和46年の指定、50年以上前の指定になるんですが、現状復旧をする必要があると、そのため、今、指定された当時の状況が全然分からないものですから、過去の地形や窯跡の確認の状況把握のために、こちらも確認調査をする必要があるということになります。そうした上で、今後の保存活用に努めていく、どのようにやっていくかということを考えていくということになっております。

それから最後の伊良湖東大寺瓦窯跡につきましては、こちらはおおむね史跡の整備は行われておりますので、現状を維持しつつ適正に保存活用していくという方向性をこちらの4で示させていただいております。

最後、五つ目の項目として、運営及び体制の整備の方向性を挙げております。組織体制の充実、及び関係機関との連携等をこちらで記載

をさせていただきます。

教育長 今後は、本計画に基づいて、渥美古窯の国指定3史跡の保護、整備、活用を推進していくということになります。

教育長 以上、令和4年3月に策定をさせていただきました保存活用計画の説明とさせていただきます。

教育長 ただいま事務局の説明がありました。

教育長 御質問等ございますでしょうか。

教育総務課長 御質問もないようですので、以上で報告事項を終わります。

教育長 次にその他ですが、事務局から何かございますか。

教育総務課長 最初に、次回の日程ということで、次第の一番下を見ていただきますと、次回は6月17日金曜日、1時半からこの会場で行いたいと思いますので、よろしくお願いします。

あと20日、高崎委員さん、理事会の出席について、すみませんけどよろしくお願いします。お願いしたいと思います。

私からは以上です。

教育長 スポーツ課で、トライアスロンの報告をお願いします。

スポーツ課長 スポーツ課長、鈴木です、よろしくお願いします。

資料とは別つづりで2枚の紙がとじてあると思いますが、2022年トライアスロン伊良湖大会の募集状況を御報告させていただきます。

昨年、一昨年と大会が中止になってしまいましたが、今年度はやるようになればと思いながら募集をかけております。一応、例年は1,000人、Aタイプ500人、Bタイプ500人だったのですが、今大会Aタイプ、Bタイプとも600人の募集をかけさせていただきました。この日曜日、5月15日の日曜日に申込の受け付けを終了をしまして、Aタイプのほうが600人の募集のところ640人、Bタイプも同じく600人のところを658人、計1,200人のところが1,298人と募集人数より多くの方の申込がございました。また、今週週末までにそれぞれが600人上限になりますので、抽選会を実施いたしまして第一次参加確定者を出していきたいと思いますので、御報告させていただきます。

教育部長 よろしくお願いいいたします。

事務局 ただいまの報告につきまして、何か御質問等ございますでしょうか。

教育長 そのほか、事務局でありますでしょうか。

事務局 特にありません。

教育長 委員の皆さんから、最後に何かございましたらお願いします。

では、ないようですので、以上で本日の議事は全て終了いたしました。

これをもちまして、田原市教育委員会第5回定例会を閉会とさせていただきます。

御協力ありがとうございました。

閉 会 午後 2 時20分

教育長

委員

委員